

1 どこまでも生きぬいて 夜回り先生50のヒント



- ① 水谷修/著
- ② PHP研究所
- ③ 1,200円
- ④ 15≒017

25年間にわたって「夜回り先生」として若者たちと接してきた作者が、生きる上で大事な50のメッセージを記しています。限りある人生を大切に生きてほしいという作者のメッセージは、読む者に生きる勇氣と希望を与えてくれます。

2 池上彰の中学生から考える選挙と未来 知っておきたい10代からの教養



- ① 池上彰/監修
- ② 文溪堂
- ③ 1,300円
- ④ 317017

2016年、選挙権が20歳から18歳に引き下げられた日本。そもそも選挙は何のために行うのか、衆議院や参議院の違い、日本と外国の選挙制度、ネット選挙など、選挙について知りたいことが写真や図を使って分かりやすく説明してある一冊です。

3 私、日本に住んでいます



- ① スペンドリニ・カクチ/著
- ② 岩波書店
- ③ 800円
- ④ 33カ017

日本に住んでいる外国人はどんな生活をして何を感じているのでしょうか。ジャーナリストの著者が日本に住んでいる外国人の様々な声を紹介しています。

多文化共生についても考えることができる一冊です。

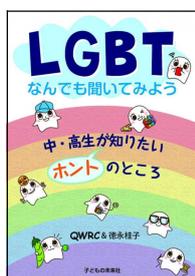
4 大人になったらしたい仕事 「好き」を仕事にした35人の先輩たち



- ① 朝日中高生新聞編集部/編著
- ② 朝日学生新聞社
- ③ 1,500円
- ④ 367017

実際に社会人として働く人たちが、自分の職業について解説している本です。仕事の中身や魅力についてはもちろんのこと、その仕事に就くためにはどのような準備や勉強が必要かについても書かれているので、キャリア学習に役立つ一冊です。

5 LGBTなんでも聞いてみよう 中高生が知りたいホントのところ



- ① QWRC/著 徳永桂子/著
- ② 子どもの未来社
- ③ 1,300円
- ④ 367016

中・高生からの質問に答える形になっているこの本は、「性の多様性」について向き合い、考えることができます。誰にも聞けなかったことを知ったり、不安や悩みを少しでも解決したりすることで、周りの人たちとの関係の大切さも感じることができます。

6 もうすぐ亡くなります
訪問看護の現場で考える



- ① 宮崎照子/著
山中桃子/絵
- ② 彩流社
- ③ 1,600円
- ④ 49≒016

身近な人の死と直面し、悩みを抱える家族や患者の実話から、初めて知ることや学ぶことは少なくありません。誰にでも訪れる人生の終末はつらく悲しいですが、生と死に向き合うことで、家族との絆についても深く考えるきっかけとなる一冊です。

7 日本一小さな農業高校の学校づくり
愛農高校、校舎たてかえ顛末記



- ① 品田茂/著
- ② 岩波書店
- ③ 880円
- ④ 52≒017

愛農高校は、生徒数が日本で一番少ない農業高校です。この学校が耐震性の不安から校舎を建て替えることになりました。その工事は、日本ではめずらしい「減築」と言われる工法。生徒や教職員、保護者たちがみんなで話し合い、学校をつくりあげていく様子を紹介した一冊です。

8 珍獣ドクターのドタバタ診察日記
動物の命に「まった」なし！



- ① 田向健一/著
- ② ポプラ社
- ③ 1,200円
- ④ 64≒017

作者が獣医になるまでの様子や、実際に獣医として働いている中での出来事が分かりやすく描かれています。生命を救うことで得られる充実感、生命と向き合うことの難しさ、獣医になってからも絶え間なく学んでいくことの必要性などについて教わるができる一冊です。

9 カーネーション



- ① いとうみく/作
酒井駒子/画
- ② くもん出版
- ③ 1,400円
- ④ 914017

母親に嫌われていると苦しみながらも、「いつか母は、あたしを愛してくれる」と信じている娘、日和。実の娘であるにもかかわらず、日和を愛することができず苦悩する母親、愛子。果たしてそれは、愛子が抱えるトラウマのせいなのか。「家族」について、改めて考えさせられる一冊です。

10 マルの背中



- ① 岩瀬成子/著
- ② 講談社
- ③ 1,300円
- ④ 914017

亜澄は小学3年生の女の子。父と弟の理央が暮らす家を出て、母と二人の生活が始まります。そんな中、駄菓子屋のおじさんから、近所で評判の幸運の猫、マルを預かることになってしまった亜澄。大人が思っているよりずっと鋭い亜澄の心の動きが鮮やかに描かれている一冊です。

11 SNS 炎上



- ① NHK「オトノハル」制作班/編
長江優子, 如月かずさ,
鎌倉ましろ/著
- ② 金の星社
- ③ 1,400円
- ④ 911017

NHK教育テレビの番組内ドラマのもとになった小説。3人の著者が、番組に寄せられた10代の声や体験談を反映させたストーリーをそれぞれ展開させます。今やすっかり身近な存在となっているSNS。誰もが被害者にも加害者にもなり得るネットトラブルについて考えさせられる一冊です。

12 Q→A



- ① 草野たき/著
- ② 講談社
- ③ 1,400円
- ④ 917016

アンケートによって出てくる本音に驚きや共感をもって読み進めることができます。中学3年の揺れ動くせつない気持ちが、離れたりつながったりしながら交錯します。さびしい気持ちを残しつつも新たな第一歩を踏み出す様子に、さわやかな読後感を味わうことができます。

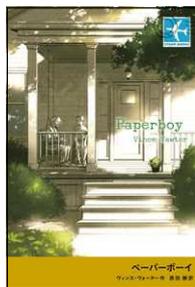
13 大人になるまでに読みたい
15歳の短歌・俳句・川柳 ③



- ① なかはられいこ/編
- ② ゆまに書房
- ③ 1,500円
- ④ 911016 3

「なやみと力」をテーマにした短歌・俳句・川柳を集めた一冊。やわらかい思春期の心に伝えたい作品が、解説や作者のプロフィールとともに紹介されています。リズムを感じるために、是非声に出して読んでほしいです。そのうち、自分でも作ってみたいくなるかもしれません。

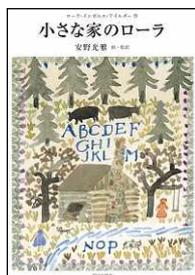
14 ペーパーボーイ



- ① ヴィンス・ヴォーター/作
原田勝/訳
- ② 岩波書店
- ③ 1,700円
- ④ 937016

吃音症の少年が新聞配達をきっかけにして、これまでの日常が少しずつ変わっていく夏休みの出来事が描かれています。いろいろな人たちとの出会いが少年を成長させていきます。その様子に共感し、感動しているうちに、自然と物語に入り込んでしまいます。

15 小さな家のローラ



- ① ローラ・インガルス・
ワイルダー/作
安野光雅/絵・監訳
- ② 朝日出版社
- ③ 1,900円
- ④ 937017

「大きな森の小さな家」の日本語版で、今から150年ほど前のアメリカ西部開拓時代に生きたローラ家族の温かく力強い暮らしが生き生きと描かれています。また、色彩豊かな優しい絵が描かれているのも魅力の一つです。